

本学初のJリーガー誕生!

柏崎市商工会と連携協定を締結	1
第37回「紅葉祭」盛大に開催	2
部活動・サークル活動	3
授業紹介	4
就職体験談	5
令和7年度の就職状況について	6
地域とのつながり	7
図書館だより	8
ネットの大学 managara	9
サンチャッカル通信	10
INFORMATION	11



本学初のJリーガー誕生！

湯岑選手入団記者会見を開催



12月18日（木）、本学サッカー部湯岑選手（経済経営学科4年）のFC岐阜入団記者会見を開催しました。湯岑選手は来季より入団予定で、本学サッカー部初のJリーガー誕生となります。

会見には湯岑選手のほか、FC岐阜チーム強化グループの神田勝夫氏、本学サッカー部の岡村宜城監督が出席し、決意や期待を述べました。

湯岑選手のコメント

入団が決まった当日は喜んだが、翌日からは切り替えて『自分は岐阜で戦っていく』という強い気持ちを抱き、日々練習や自主トレーニングに励んでいる。1年目ということは関係な

く、来季から主力として出場、そして岐阜の勝利に絡めるよう奮闘していきたい。

岡村宜城サッカー部監督のコメント

創部以来初となるJリーガー誕生で非常に嬉しく思っている。今後の彼の動向に注目して、応援していただきたい。

Jリーグは2月から百年構想リーグが始まります。FC岐阜湯岑選手の活躍に、皆さまどうぞ注目ください！



左からFC岐阜神田氏、湯岑選手、岡村監督

柏崎市商工会と連携協定を締結

11月25日（火）、本学は柏崎市商工会（村山卓会長）との連携協定を締結し、柏崎市産業文化会館で調印式を執り行いました。

本協定は相互が有する知識やノウハウ、資源等の活用により、相互が協力し地域社会の発展と人材の育成に資することを目的としています。これを受けて、今後は以下の事業について、連携協力していきます。

1. 地域資源の活用による観光・交流価値の再構築
2. 観光商品開発
3. 地域観光・交流情報の発信
4. 学生が行うインターンシップの場の提供およびその仕組みの構築



協定書に署名する梅比良真史史学長と村山卓会長

5. 地域活性化に関する情報交換
6. その他、相互の協議により連携の取り組みが必要と認められた事項



左から金センター長、梅比良学長、村山会長、櫻井雅浩柏崎市長

金光林地域連携センター長のコメント

本協定の締結により、新潟産業大学が有する教員の知性と学生の活力、柏崎市の伝統と地域資源が融合し、新しい可能性と価値を生み出すことが期待されます。新潟産業大学地域連携センター長としてこの連携協定の実行に努めていく所存です。

第37回「紅葉祭」盛大に開催

10月18日（土）・19日（日）に第37回紅葉祭が開催されました。

主催する学生会・紅葉祭実行委員会が掲げた今年のテーマは「産紅協心」。『生み出す喜び、心を一つに協力しよう』という願いを込めてメンバーたちで選びました。開催にあたり、実行委員長に加藤怜那さん（文化経済学科2年）は、「教職員を含め大学全体で紅葉祭を成功させたい」と意欲を語っていました。



受付で学生会メンバーがお出迎え

初日は、1年生のクラス単位での出店、ゼミナールや有志団体による飲食ブースが多数並びました。中庭では串焼きに唐揚げ、学長提供の広島風お好

み焼き、カルメ焼きにキッチンカーと、どれも盛況でした。変わり種では、陸上自衛隊による装甲車両の展示があり、子どもたちが多数詰めかけていました。一方教室イベントも、市役所や消防署をはじめ、茶道部のお茶会、阿部ゼミや権田ゼミの特産品販売、手もんづらサークルの作品展販売、書道部の書道体験、写真部の企画展示など、各団体が趣向を凝らしていました。



産大グッズやグルメが集結！

講堂では「キッズダンス」で地元の子どもたちが、元気で明るいパフォーマンスを披露。客席からは歓声と万雷の拍手でした。中庭では、「太鼓集団鼓明楽」が迫力ある音を響かせ、午後

は産大&附属高校吹奏楽部による演奏会がありました。またA号館では父母の会主催の「文化講演会」が開かれ、元サッカー日本代表、スポーツコメンテーターの永島昭浩氏による講演がありました。演題は「夢があるから強くなれる」で、ご自身のサッカー人生から、本学サッカー部やアルビレックス新潟まで、盛りだくさんのトークでした。体育館では軽音楽部によるライブが響き渡り、終了時刻まで多くの来場者で賑わっていました。



永島昭浩氏

二日目は、雨の中での開催でしたが、屋内を中心に多くの見どころがありました。

講堂では、ダンスサークルによるエネルギーギッシェなパフォーマンスが披露され、附属高校ダンス部とのコラボで会場は一層盛り上がりました。続いて紅葉祭メイン企画の一つであるお笑い

ライブには、大勢の人が詰めかけました。新潟でも活躍中のMC「さとちゃん」が場を盛り上げ、お笑いコンビ「Everybody」・新潟出身のHIWAのライブは大きな笑いを提供してくれました。



地産地消販売(権田ゼミナール)

そして、紅葉祭の最後には、毎年恒例のビンゴ大会が行われ、数字が発表されるたびに会場から歓声が沸いていました。学生教職員はもとより地元の方々も賑わい、静かな杜のキャンパスが活気づいた二日間となりました。

部活動・サークル活動紹介

卓球部
全日本大学総合卓球選手権大会個人の部出場

卓球部は、夏のインカレ出場（団体の部）につづき、10月21日（火）から24日（金）、大浜だいしんアリーナ（大阪府堺市）で行われた91回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）に出場しました。男女合わせて4名の出場は数年ぶりの快挙でした。

女子ダブルスに新沢ほのか選手（経済経営学科4年）と松尾悠華選手（文化経済学科1年）のペアが、男子シングルに望月李亜夢選手（経済経営学科3年）と倉又夢歩選手（経済経営学科1年）が出場しました。

結果は、全国の壁は厚く残念ながら全て初戦敗退となりましたが、新潟産業大学の名を全国にアピールしてくれました。



女子ダブルスの新沢選手(左)と松尾選手

ダンスサークル
紅葉祭で附属高校ダンス部とコラボ

ダンスサークルは、10月19日（日）、紅葉祭二日目のステージ企画でダンスパフォーマンスを披露しました。附属高校ダンス部とのコラボを含めバラエティに富んだ構成で、観客を魅了しました。



紅葉祭でのパフォーマンス

本学のダンスサークルは、ここ数年活動を休止していましたが、今年度、藤野凛さん（経済経営学科4年）を中心に復活！中村まい先生を顧問に迎え、夏には柏崎市内の特別養護老人ホーム

を慰問してパフォーマンスを行うなど、精神的に活動しています。現在の部員は6名ですが、日々練習を重ね、来年度は更なる活躍が期待されています。ダンスサークルではメンバーを絶賛募集中です。経験の有無は問いません。「ダンスに興味がある」「体を動かしてみたい」そんな学生の皆さんは大歓迎ですので、顧問または学務課までお声がけください。

スポーツ・レクリエーションサークル
「産大カップ」バレーボール大会を開催

11月26日（水）、スポーツ・レクリエーションサークルが中心となって企画した「産大カップ」が開催されました。種目は昨年度のソフトボールに替えて、今回はバレーボールを行いました。



大会前半は、1年生が主体のチームに職員チームが加わってリーグ戦を展開し、後半は2年生が主体のチームに教員チームを加えたリーグ戦が展開されました。前半では、元氣ハツラツの女子チームが会場を盛り上げ、後半は、教員チームの予想外の奮闘が会場を沸かせました。教職員と学生とのヤジの掛け合いもあり、大会は白熱しつつも終始和やかなムードでした。

競技の後は、「さんだいダイニング」（学生食堂）でケータリングが提供され、教職員と学生がプレーを振り返りながら親睦を深めました。

授業紹介

**10歳若返る！健康づくり
「インターバル速歩」**
—その背景と効果のエビデンス—

11月20日（木）、マスコミ（テレビやニューヨークタイムズ（NYT）等）に、頻繁に出演されている信州大学医学部の能勢博教授を招き、一般公開にて標記の講演会を開催しました。



能勢 博 信州大学教授

誰しも20歳代をピークに体力は衰え、いつか自力歩行が難しくなる等「寿命」と「健康寿命」に差が出てきます。この差の期間は「寝たきり状態」にあるといえ、その結果医療や介護費用を押し上げ、自治体財政に重くのしかかります。長野県松本市での研究では、「インターバル速歩」は抗加齢の役割を果たし、医療費の20%の削減効果をもたらすとしています。

日常生活で、①「何もしない」②「1日1万歩」③「インターバル速歩」の3群に分け、5カ月間介入してデータ

を採用したところ、健康指標において①と②ともに改善効果があり見られないのに対し、③では顕著な効果が現れることが分かりました。こうした結果が目を引き、NYTにも取り上げられ、今では日本式歩行と言われるまでになっています。



追記・本学の「インターバル速歩」に依拠した「健康づくり」教育は、新潟県も補助金で後押ししてくれています。今後の進展にご期待ください。

本講演企画担当

副学長 住吉 廣行

**国内旅行業務取扱
管理者試験に合格**

昨年9月に実施された「国内旅行業務取扱管理者」国家試験に、立田和也さん（文化経済学科2年）が合格しました。立田さんは合格率30%の難関を突破し、本学では、昨年度からの旅行関連の授業開講以来、初の合格者となりました。



立田さんのコメント

私は高校時代から旅行が好きで、これまで国内では45の都道府県を訪れました。その旅行で得た知識が試験にも役立ちました。これからも色々なところを旅して、将来を見据えて知見を深めていきたいです。

**柏崎中央ロータリークラブ
留学生懸賞文コンテストで受賞**

12月17日（水）、柏崎中央ロータリークラブ2025年度留学生懸賞文コンテストの表彰式が行われ、本学の留学生3名が表彰されました。

コンテストの最高賞である優秀賞を受賞したのは、ヴェイクトオウンさん（経済経営学科3年 ベトナム）の「柏崎から始まる」〜コミュニティ・コネクト&クリエイティブ〜です。続く佳作に陳龍さん（経済経営学科3年 中国）の「柏崎市における多文化共生の現状と課題」中国から来た留学生の視点から、同じく佳作に阿露斯さん（文化経済学科2年 中国）の「青の柏崎」が選ばれ、3名は賞状と懸賞を手にとり笑顔を見せていました。

今後も留学生が自国の文化的視点を持ちつつ積極的に地域との交流を深め、柏崎の発展に貢献してくれることを期待しています。



左から陳さん、ヴさん、阿さん

4年生の就職体験談

〜後輩へのメッセージ〜



経済経営学科4年
磯川 魁志
(内定先 南越消防組合)

私は、消防士になることが幼い頃からの夢であったため、地元の南越消防組合を志望しました。
私が就職活動をはじめた時期は、2年生の秋です。将来が不安になり、就職活動に取り掛かろうとしました。しかし、なにか始めたら良いのか、右も左も分からない状態でした。そのような中、大学で公務員対策講座があることを知り、参加しました。そこで講師の方から、公務員試験について詳しく教わり、合格するために必要なことを具体的に理解することができました。

まず取り掛かったのは、教養試験の対策です。大学の公務員試験Web対策講座で、数的処理、文章理解、社会科学などを勉強しました。私は数的処理が苦手でしたが、Web講座の授業では基礎から学ぶことができ、少しずつ問題が解けるようになっていきました。教養試験は問題数が多く、自然と他の人との差が付くようになります。そのため、志望する業種の出題傾向、出題割合を調べ、効率的に取り組むことが大切だと感じました。次に時間をかけて取り組んだのは、面接対策です。SNSで消防面接対策の動画を調べ、参考にしました。質問内容を書き留め、



経済経営学科4年
石川 なつみ
(内定先 金津信用金庫)

その質問に対しての答え方を考え、ノートにまとめていきました。就職課職員の方には何度も面接練習をしていただきました。また、自己PRについてもアドバイスをいただき、自分の強みと意欲を簡潔に伝えられる内容に仕上げることができました。
就職活動は不安なことが多いと思います。就職課職員の方、家族、そして友人の力を借りてください。行動は自信に繋がります。夢や目標に向かって頑張ってください。応援しています。

私は、会計などの数字やお金に関わる仕事に就きたいと考え、そのための知識を身に付けるために経済学部を選びました。授業を通して「地元に戻り、地域に貢献したい」という目標が明確になり、自分のやりたいことと両立できるのは地方銀行への就職だと考え、地元の金融機関に絞って就職活動を進めました。
就職活動は、3年生の春から大学内で開催されるセミナーへの参加をきっかけに始めました。夏休み頃からはマイナビのアプリを利用し、オンラインを中心に、対面の会社説明会にも参加しました。進みたい方向性は



経済経営学科4年
大杉 幸汰
(内定先 えちご上越農業協同組合)

決まっていたため、各企業の特徴や働きやすさ、職場の雰囲気などを中心に比較検討しました。正直なところ、最初の頃は「何とかなるだろう」という気持ちがあり、本格的に動き始めたのは秋から冬にかけてでした。
一方で、ガクチカ対策については大学入学時点から意識して取り組んでいたため、就職活動を始めるとはゼロからのスタートではないこともあり、周囲よりは一歩差をつけた状態で始められたと感じています。
金融機関は、一般的な民間企業と比べると内定を出せる時期が決まっているため、近年の早期化が進む就職活動の中でも、内定時期はやや遅くなる傾向があります。実際に私が内定をいただいたのは5月末頃でしたが、友人の中にはゴールデンウィーク前に内定が出ていた人もいました。周囲の状況を聞いたり、面接結果を待っている間が一番辛いと感じる時だとも思います。しかし、そのような時に焦っても結果は変わりません。「落ちるはずがない」と自信を持って言えるよう取り組んでいきたいと思います。

私は大学3年生の3月以降に本格的な就職活動を開始しました。それまでは志望業界を特に定めておらず、学内のセミナーやガイダンスへ意欲的に参加していました。各回で配布される資料はファイリングし、復習

に活用することで、自己分析や業界・業種研究に役立てていました。実際に自己分析を行う際には、それらの内容が大いに参考になったと感じています。特に、長所や短所など様々な側面から自分と向き合うことで、自身の思いを改めて確認することができました。その結果、「自身が働くことで地域の方へ恩返しをしたい」という思いを抱き、これを就活の軸として活動を進めていきました。
就活の軸をもとに企業探しを進める中で、地域に密着した活動を行っているJAEちご上越の存在を知りました。信用事業や共済事業など、地域の方と深く関わる事業を展開しており、私自身の就活の軸や取り組みたいことに合致していると感じ、採用試験の受験を決定しました。志望度が高かったこともあり、面接対策には特に力を入れて取り組みました。当初は緊張から十分に話せず、「なぜ他の組合ではなく上越を志望するのか」という質問に苦戦しました。回答が表面的になつてしまい、自身の思いや就活の軸と結びついていない点に課題を感じていました。そこで、面接練習後に職員の方から「伝え方」について助言をいただき、改善を重ねました。その結果、本番では自信をもって受け答えができ、内定をいただくことができました。
就職活動は、自分自身と向き合う大切な時間だとも思います。未来の自分を思い描きながら、一歩ずつ進んでみてください。行き詰まった時には一人で抱え込まず、就職課を頼ってください。職員の方々は、皆さんの未来への懸け橋になつてくれるはずです。

就職を取り巻く環境の変化と就職支援

社会や産業の変化が続く中で、学生にとっても企業にとっても就職を取り巻く環境に新たな動きが見られる年となっています。少子化の影響により学生数が減少する一方で、多くの企業は引き続き人材確保に力を入れており、「売り手市場」の状況は依然として続いています。

現在の求人状況を説明しながら早期から就職活動への意識を高めていきます。学生が納得できる就職活動をするためには、「企業選びの軸をもつ」と「自分の個性を知る(自己分析)」ことが重要となるため、それに向けた就職イベントを実施しています。

その一方で、企業が求める人材像は従来よりも多様化しており、専門性に加えて、デジタルスキルや柔軟な思考力を重視する傾向が強まっています。特に、AIやデータ活用の進展に対応できる人材は、業種を問わず今後さらにニーズが高まると考えられます。学生の就職活動にも変化が続いています。オンライン説明会やWeb面接はすっかり定着し、全国の企業にもアクセスしやすくなりました。その一方で、対面での交流が減ったことで、会社の雰囲気や働くイメージがつかみにくいと感じる学生も多く、情報の収集方法に工夫が求められています。また、インターンシップの重要性がより高まり、大学3年生の早い段階から就職活動が始まる傾向は続いています。

昨年12月13日(土)には、「就職活動集中対策講座」を実施し、参加学生はグループディスカッションの実践や効果的な面接の受け方講座、模擬面接(個人面接)を行い、就職委員の教員や4年生の先輩方から「自己分析が足りない」と面接で自分の長所を活かした回答ができない」などシビアなアドバイスをもらっていました。また、2月10日(火)には、県内外の企業の方にお越しいただき「企業研究セミナー」を実施しました。学生たちは多種多様な企業の方からお話を聞かせていただき、自分の就職の軸を見つけることになりました。

令和7年度の就職状況について



本学では、3年生の4月から就職セミナーを実施し、このよう

方、情報量の多さや活動の早期化により悩みやすい側面もあります。これからも就職委員の教員とゼミ担当教員が密に連携し、学生一人ひとりを丁寧サポートしていきます。

令和7年度の就職内定状況

本学の就職内定状況 (令和8年1月31日現在)

	経済学部		
	男子	女子	合計
内定率 (%)	87.3	90.0	87.7
内定者数	48	9	57
上場企業内定率 (%)	11.6	22.2	13.5
上場企業内定者数	5	2	7
就職希望率 (%)	93.2	100.0	94.2
就職希望者数	55	10	65
卒業予定者	59	10	69

注：外国人留学生・社会人を除く
 内定率 (%) = 内定者数 ÷ 就職希望者数
 就職希望率 (%) = 就職希望者数 ÷ 卒業予定者数
 上場企業内定率 (%) = 上場企業内定者数 ÷ (全内定者数 - 公務員合格者数 + 個人経営業内定者数)

主な就職内定先 (令和8年1月31日現在)

業種	内定先企業名
建設業	オムニテック(株)、株柏崎クオリティーサービス、(南)カツミ商会、東京パワーテクノロジー(株)、株北條組、株レックス
製造業	(南)石倉製麺所、株AIRMAN、大野ロール(株)、私市醸造(株)、株CLASS(株)、株コヤマ、丸井産業(株)、株丸互、明和工業(株)
情報通信業	Sansan(株)、ソフトシステム(株)、株ポールド
運輸業・郵便業	三岐鉄道(株)、中越運送(株)、株新潟食品運輸
卸売業	昭和電機産業(株)、株タカチホ
小売業	岐阜トヨタ自動車(株)、サントリービバレッジソリューション(株)、株シースペース、福岡スバル(株)、株マミーマート
金融業・保険業	会津信用金庫、大分みらい信用金庫
不動産・物品賃貸業	株カンエー・ハウジング、株トップ、株パートナーズ、株よかタウン
専門・技術サービス業	株セトウチ
宿泊業・飲食サービス業	株丸亀製麺
医療・福祉	株チャームケアコーポレーション、(社福)ロングラン
生活関連サービス業・娯楽業	株岐阜フットボールクラブ、株高知新聞企業、ザスパ草津チャレンジャーズ、株シリウス
複合サービス事業	えちご上越農業協同組合、えちご中越農業協同組合、北新潟農業協同組合
他に分類されないサービス業	(南)浅岡環境保全、株アトックス、株アマギ、株エイジック、東京レコードマネジメント(株)、株新潟総合警備保障(株)、株日本原子力防護システム(株)
地方公務・国家公務	自衛官一般曹(航空)、富山県警察、南越消防組合



地域貢献活動レポート

【附属柏崎研究所の活動】

「第8回柏崎学シンポジウム」を開催

新潟産業大学附属柏崎研究所主席研究員 春日 俊雄
11月30日(日)、本学の202教室において「第8回柏崎学シンポジウム」を開催しました。第6回からの基本テーマ「人口減少が進む中でも幸せ感を育む」を考へる」に基づいて、今回は「外とのヒト・モノ・コトのつながりをつくる」を考へる」をテーマに、休日にもかかわらず、約80名の参加がありました。



第1部の地域活動報告では、「外とのつながりを考へる」ためのヒントとなる先駆的な活動事例を4名の方から報告いただきました。



連合東京青年委員会 雪国ボランティア受入 事務局長 中村 圭希氏

軒下除雪のボランティア活動が昨年30周年を迎えて、地域や参加者の両方から喜ばれ成果を上げていることや、移住者も生まれたことを報告。



カフェひばりの楽家 店長 橋本紫乃氏

「陽の楽家」の和紙をしつらえた柔らかな空間と居心地の良さ、地元の食材を使ったメニューが人気で県内市外からの来訪者が多いことを報告。



株式会社越後みそ西 専務取締役 梶堀 佳倫氏

味噌や味噌漬、醤油、甘酒など「食は地域のアイデンティティにつながる！」として全国に発信し、好評を得ていることなどを報告。



株式会社ハク 代表取締役 中村 奨氏

「ぎおん柏崎まつり海の大花火大会」有料観覧席用お弁当(約5000食)

業務を統括するなど、弁当の自由度や変幻自在さを活かした活動を報告。

コメンテーターは本学の片岡直樹教授、蓮池薫教授が務めました。第2部では「専門的な知見から外とのつながりを考へる」という課題に沿って、2名の専門家から具体的な提案及び意見交換を行いました。



江戸川大学名誉教授、北海道東川町魅力創造アドバイザー 鈴木 輝隆氏

多様なつながりが未来を創造する。寛容、丁寧、親切、スピード、外とのつながりが大事で、共存・共感から新たな発見が起ると述べました。そして、東川町では地域おこし協力隊や地域活性化企業人、国際交流員など約110名が準国家公務員として大きな役割を果たしていると実例を挙げて成果を示しました。



株式会社自遊人代表取締役、株式会社MD代表取締役 岩佐 十良氏

地域の価値を活かす提案として「ガストロノミーリズム」を取り上げ、世界市場で15%〜18%と高い成長率を示し、食から文化を感じる旅でフード&カルチャー十農十体験の要素からな

る「複合体を楽しむ旅」と位置づけました。また2022年以降、ウエルネス&リトリートが急速に広まっており、健康・精神・風土を重視した軽い食事と養生がポイントになっていると述べました。

今回のシンポジウムは聴講者からも大変好評を博し、アンケートにはたくさんコメントが寄せられました。

聴講者のアンケート(抜粋)

「貴重な話が聞ける機会となった。学び、実践するよう今後も精進しようと思った」(40代男性)
「東川町に行ってみようと思った」(30代女性)

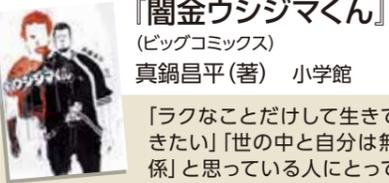
「良い刺激になった。物事の見方、価値観の種類、捉え方など大変勉強になった」(40代男性)

「素晴らしい熱のこもった話が聞けて元気をもらった。今までの中で一番感銘を受けたシンポジウムだった」(50代男性)
「大変面白く聞かせていただいた。これからの活動につながる学びが多くあった」(50代女性)

「地域づくりのキーワードの一つは『食』であることは間違いないと思った。そのために農業は守っていかないと!と思った」(40代男性)

第1部の報告者の皆さん及び第2部の専門家のお二人に深く感謝を申し上げます。そして多忙な中ご参加くださった聴講者の皆さん、有難うございました。

片岡教授のオススメ本

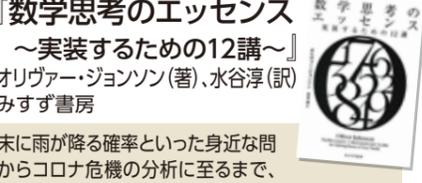


『閻金ウシジマくん』(ビッグコミックス) 真鍋昌平(著) 小学館
「ラクなことだけして生きていきたい」「世の中と自分は無関係」と思っている人にとって必読の書。きっと多くの学びがあるだろう。インパクトの強いテレビ版や映画版(DVD等)がオススメ。 ※なお悪質な金融業は違法です。

先生方のオススメの本を教えてください

Part VII

絹川教授のオススメ本



『数学思考のエッセンス ~実装するための12講~』オリヴァー・ジョンソン(著)、水谷淳(訳) みすず書房
週末に雨が降る確率といった身近な問いからコロナ危機の分析に至るまで、情報が溢れる現代において、示されたデータを鵜呑みにせず、世の中を自ら考へて理解する力を養う一冊です。これまで何となく暗記してきた定義や定理を、数学を「使える感覚」として捉え直すことができます。

「読書三到」に誓う

附属図書館 館長 江口 潜

新潟産業大学(以下、産大と書く)の図書館には「読書三到」という揮毫がなされた大きな木の板が飾られている。それは(産大の前身)新潟短期大学の図書室に既に飾られていたもの。それを新潟短期大学が新潟産業大学になった1988年(昭和63年)に産大に持ってきたらいい。ちなみに私は1994年(平成6年)4月に産大に赴任したので1988年当時のことは詳しく無い。いずれにしても今も産大図書館にある「読書三到」と書かれた「あの板」は新潟短期大学の時代から今日まで、静かに私たち産大を見つめて続けてくれた存在であり「我がが大学そのもの」と言えよう。

その「読書三到」であるが、その字は白く鮮やかで際立っている。ということは誰かがどこかの機会に「読書三到」の字を(職人さんに頼んで)白い色を入れ直してもらったということだ。ではそれは、どなたであったのか。

私が産大に赴任し1年ほど経った3月、新潟短期大学時代からずっと図書館に勤務されて来た職員Oさんが定年退職の日を迎えられることになった。私にとっては初めての「定年退職される方をお見送りする機会」だった。3月だったので春休み。私はたまたまその日に大学にいて、Oさんが大学の玄関で退職のご挨拶をされる場に居合わせることになった。

当時在籍の職員は全員集まっていた。教員は数名いたかどうか。そして(私は個人的に花束を買って来ていたのだが私ごときが花束を渡すのは差し出がましうと思ひ、私と年齢の近い女性司書Tさんにその花束を「あなたから(Oさんに)渡して下さい」といって預けた。



そしていよいよOさんが3階図書館からエレベーターで降りて来られ玄関前に立たれた。その姿を見た時、当時30歳だった私は理由も無くただただ込み上げてきて、こらえられなかった。花束はTさんに託して正解だった。Tさんが花束をOさんにお渡しし、そしてOさんが挨拶をされ始めた。そして「記念に読書三到の白を、入れ直させてもらいました」とおっしゃり、花束を少し見つめ直し「季節のお花を頂いて、ありがとうございます」と述べられ挨拶は終わった。

以来、私は「読書三到」の板の前では「一礼」をしてきた。大学に勤務するということはどういうことなのかを私はあの時教わった。そして誓った。私は産大を退職する日まで「読書三到」の前に「恥じるところ無き」を貫くことを。そして最後は「読書三到」に頭を下げ静かに去ることを。

簡易スクリーンやホワイトボードで生まれる可能性

単なる読書スペースとしてだけでなく、利用者の多様な活動を支援するマルチユーススペースとして、ブラウジングコーナー(雑誌閲覧スペース)の活用を常々考へていました。この可能性の鍵となるのが簡易スクリーンとホワイトボードです。

簡易スクリーン：館内上映を可能にする新たなツール



壁による仕切りや別部屋がない当館では、上映スペースが確保できない問題を抱えていました。「奥まった特性を持つブラウジングコーナーを活用することにより、上映会が行えるかもしれない」、そんな思い付きから当コーナーを活用する検討が始まりました。上映の際の騒音対策が一番の課題でしたが、利用者の少ない曜日時間帯に行うこと、事前に十分な告知を行うことで課題をクリアできると考えました。準備として、簡易スクリーン、聞こえやすさを重視したスピーカーを購入、普段はブラウジングの場として上映時は上映会場として切替を行います。個々に映像や動画を楽しむ昨今ですが、同じ時、同じ場所での大きなスクリーンで共に映像等を見る体験は、きっと新鮮な感覚をもたらしてくれるものと思います。試験的な運用を経て、これから積極的な周知を行う予定です。

ホワイトボード：思考の見える化と少人数ミーティングの実現

少人数の利用を想定、ミーティング活用や学習のサポートツールとして多目的な利用を促すために設置しました。

ミーティングにおける効果

視覚的な情報共有(図や文字の書き出し)をすることで、可視化しながらミーティングを進めることができますので、控えめな声量での話し合いが可能になります。可視化のメリットは、目的や流れ、ゴールが頭に入りやすい点ということが挙げられます。また、話し合いの中での誤解や確認もれを防ぐことができるというメリットも挙げられます。ゼミ・部活等の小規模ミーティングにぜひご利用ください。

学習のサポートツールとしての効果

思考の整理に非常に有効です。情報を体系的に整理し、アイデアや概念を構造化することで、学習や思考の質を高めるツールとして活用することができます。ホワイトボードを使った思考の整理をすすめる本などもあるほどです。実際に利用している学生もいます。ぜひ、図書館のホワイトボードを学習のツールとしてもご利用ください。

これからも読書以外の活用提案を行い、「本を借りる場所」を起点に様々な「創造の場」へと広げてまいりたいと思います。

一般の方も図書館をご利用いただけます。ご入館の際、カウンターでお手続きをお願いいたします。 新潟産業大学附属図書館 Tel.0257-24-8435 E-Mail: library@ada.nsu.ac.jp

講義をはじめ、大学生生活のすべてをオンラインで完結できる「ネットの大学 managara 経済学部(経済学部経済経営学科通信教育課程)」では、1400名を超える学生が全国各地・海外でそれぞれのライフスタイルに合わせて学びを進めています。そんな managara の直近のトピックスを中心に、キャンパスライフをご紹介します。

トピックス

第学院 managara BASE 続々と開校

managara は、自分のライフスタイルに応じて7つのコースから自分にフィットしたコースを選択することが可能です。そのひとつであるプレミアムコースの所属生が利用できる「第一学院 managara BASE」が今年度も続々と開校しています。4月に第一学院 managara BASE 名駅(愛知県)、6月に第一学院 managara BASE 西宮北口(兵庫県)、8月に第一学院 managara BASE 高松(香川県)、10月に第一学院 managara BASE 越谷(埼玉県)の計4校が開校しました。通信制でありながら、通学による学びや交流の機会も大切にしたいというニーズに応える拠点として、プレミアムコース所属生が利用できる「第一学院 managara BASE」は全国各地で展開されています。

【他の拠点】
池袋(吉祥寺)(東京都)、
福井(福井県)、梅田(大阪府)、
福山(広島県)

第一学院
managara
BASE
詳細は「Unit1」



高知県四万十町で「ローカルレジリエンスプログラム」に挑戦

「ローカルレジリエンスプログラム」は、地域課題のヒアリングを重ねながら、ビジネスプランの企画から実現を目指すし、地域の方々と仲間と「共創」して行う超実践型プログラムです。managara では今年度よりこのプログラムを導入しており、参加学生たちはオンラインでの事前学習を経て、実際に高知県四万十町で2週間にわたる現地活動を行いました。事前学習では地域の歴史や産業について学び、現地でのフィールドワークに向けた準備を重ねてきました。

現地では、地域の事業者や住民の方々へのヒアリングを通じて、地域が抱える本質的な課題を探り、それを解決するためのアイデアを練り上げていきました。中間発表会では、事業者の方々から厳しくも温かいフィードバックをいただき、学生たちは自分たちの視点や考え方を問い直す機会となりました。

学生たちは多くの壁にぶつかりながらも、地域の方々との対話を重ねる中で新たな発見や視野の広がりを経験し、一人ひとりが確かな成長を実感できる2週間となったようです。学年や年齢、専門分野を超えたチームワークを発揮しながら、座学では得られない実践的な学びを深める貴重な機会となりました。



オンライン学園祭・第5回 managara 祭を開催

第5回目となる今回の managara 祭は、「どこフェス?」ここフェスをスローガンに掲げ、今年も学生チームが主体となって開催されました。このスローガンには、「今自分がいる場所こそが学園祭の中心である」というメッセージが込められており、オンラインならではの自由度と参加しやすさを大切にしたい、キャッチーな言葉となっていました。

当日は、教育系 You Tube として人気の高い「とある男が授業をしてみた」の葉一さんをゲストにお迎えし、学生や視聴者から寄せられた質問を中心に話しいただきました。配信や授業に関する内容はもちろん、幼少期のお話、趣味や特技、さらには AI とこれからの教育といった幅広いテーマについて語っていただき、大変盛り上がる時間となりました。

企画立案から事前準備、当日の運営に至るまで、すべて学生が主体となって進めました。多くの学生が活躍し、笑顔あふれる素敵な学園祭となりました。



オンラインでオープンキャンパスを開催しています。詳細はホームページをご覧ください。学生もオープンキャンパスの運営を担い、managara ならではの学生生活を未来の後輩に紹介しています。

お問い合わせ先「ネットの大学 managara 教育相談室」
Tel : 0120 (836) 047
E-mail : managara_nyushi@ada.nsu.ac.jp



『サンチャッカル通信』 vol.5

産大マスケットキャラクターのサンチャッカルがお届けするコーナー『サンチャッカル通信』。昨秋に行われた「紅葉祭」(大学祭)では、入試課の出展ブースに「産大ガチャ」が登場!ボクのキーホルダーが勢ぞろいしたちゃっかるよ。

柏崎のゆるキャラ「えちゴン」と一緒に



【PROFILE】
サンチャッカル
(二代目)
2005年に産大マスケットとして誕生。名前の由来は産大のサン、チャイカ(ロシア語でカモメ)のチャ、カルメギ(朝鮮語でカモメ)のカルを足したものだ。



このコーナーでは、ボクの似顔絵やお便りを募集しています。送ってくれた方には、紅葉祭のガチャでシークレットだった「ちびちゃっかるキーホルダー」をプレゼント!世界に60個しかないレアモノをゲットだけ!ん?キャラが違った汗宛先は「入試課サンチャッカル通信係」まで!大学公式HPやX、インスタもチェックしてね!

新潟産業大学基金 ご支援のお願い

皆さまからの温かいご支援をお待ちしております。

新潟産業大学では、皆さまからの温かいご支援による学生の学び環境の向上を目指しております。皆さまから頂戴したご寄付を活用させていただき、令和7年度はこれまでに本館1階学生トイレの洋式化と食堂前廊下へのLED照明の設置、そして一部教室のエアコン入れ替えを行うことができました。皆さまからの温かいご支援の一つひとつが教育を支える大きな力となり、学生生活を豊かにすることに繋がります。引き続き本学基金に賛同いただける方は、下記のQRコードよりお手続きをお願いいたします。【寄付金のご応募は任意です】



INFORMATION

学生広報チームが SNSで情報発信

ゼミや部活動、学内外のイベントなど、学生が産大の魅力をXやInstagramで発信しています。各メンバーの持ち味が滲み出て?いますのでぜひご覧ください!



参加者は入学検定料が半額に! 春のOPEN CAMPUS

2026.3.28(土) 10:30~13:00

皆さんの参加を
お待ちしております!

【プログラム】

学部・学科の魅力を説明、
入試・奨学制度の説明、
資格取得者体験談、在学生による
キャンパスツアー、フリートークなど



*実施内容は変更となる可能性があります。詳細は大学HPをご覧ください。

参加お申し込み・お問合せ

☎0120-787-124 (入試課)
nyushi@ada.nsu.ac.jp

お申し込みは
コチラ➡



学事日程 (2026年4月~9月)

月	日	行 事 等
4月	3月29日(日)~2日(木)	履修登録期間
	1日(水)~3日(金)	ガイダンス・健康診断
	4日(土)	入学式
	6日(月)	授業開始
	30日(木)	4/29祝日振替授業日
5月		
6月	2日(火)	創立記念日授業日
	13日(土)	個別面談・父母の会総会
	15日(月)~19日(金)	個別面談個別対応週間
7月	23日(木)	地域理解ゼミナール合同発表会(2年生)
	24日(金)	7/20祝日振替授業日
	27日(月)~29日(水)	補講日
	30日(木)~8月5日(水)	春学期定期試験期間
8月	6日(木)	試験予備日
	7日(金)	学生夏季休業開始
	12日(水)	追試験
	13日(木)~14日(金)	お盆窓口業務休業日
	17日(月)~9月4日(金)	集中講義期間
9月	10日(木)	秋学期卒業生発表
	18日(金)~24日(木)	履修登録期間
	25日(金)	授業開始
	30日(水)	9月卒業式



表紙の写真「光のはじまり」

撮影場所:魚沼市枝折峠

表紙の写真は、本学写真部の森山明佳さん(文化経済学科2年)の作品です。

10月の早朝、眠い目をこすりながら家を出て車を走らせました。

向かった先は魚沼の枝折峠。雲海に昇る朝日がパッチリ撮影できました!

新潟の素敵な撮影スポットがありましたら、ぜひ写真部までご一報ください。



青海波 (せいがいは)

無限に広がる穏やかな波に未来永劫と平和な暮らしへの願いが込められた文様。

この文様の由来は遠くシルクロードまで遡るとされており、これを本学の校章(3つの波)に重ね合わせ、地域を知り世界を知ることの象徴として、本学の情報発信媒体である学報の名称に採用しました。

発行日/令和8年2月

編集・発行/新潟産業大学 新潟県柏崎市軽井川4730番地

TEL0257-24-6655 FAX0257-22-1300 <https://www.nsu.ac.jp/>